

## 小児慢性疾患在宅障害児の医療機器使用への援助 (分担研究：小児慢性特定疾患のtotal care と その具体的推進法の研究)

諏訪城三<sup>1,2)</sup>，前坂機江<sup>1)</sup>，金沢秀子<sup>2)</sup>，大平友子<sup>2)</sup>，  
中山佳子<sup>2)</sup>

**要約：**脳障害，呼吸器障害による気道内分泌物過剰のため吸引器を必要とする75例の難治性慢性疾患(先天性代謝異常など)について，トータルケアの一環としての在宅吸引器使用状況を分析した。8台の吸引器は平均年間126日貸出されており，1台平均4.6回，1回貸出し28日間であった。くり返す肺炎の予防，外泊可能児の増加，退院し在宅療育に移れたものの増加，機器の自己購入前に試用・訓練ができるなどの利点があった。しかし管理，修理，貸出し期間など今後検討すべき点もあげられた。

**見出し語：**在宅障害児，吸引器，呼吸障害，医療機器貸出し。

**研究目的：**難治性慢性疾患の小児の在宅ケアは重要な課題であり，ケアの内容も次第に専門的知識を必要としたり，高度化しつつある。医療機器を使用しながら家庭療育をうけている例も次第に増加している。また，それが可能になることで，長期入院から在宅ケアに移り，両親のもとで生活できるようになる患児も増加している。われわれの病院でも，慢性疾患が全患者にしめる割合は極めて高く(約45%)，また小児慢性特定疾患は全県下の20%を占めており，当然そのなかには医療機器を家庭で利用しながら医療を受けているものも少なくない。そこで本年度は，家庭で吸引器を使用している患児について調査・検討を加える

こととした。

**研究方法：**吸引器を使用すれば比較的楽に呼吸管理のできる75名の患児を対象とした。家庭で安全に使用できる8台の吸引器を，約1カ月間の期間を目安として，吸引訓練の目的で貸出した昭和58年11月から昭和62年10月までの4年間を調査期間とした。使用にあたっての指導は医師，看護婦，保健婦が行い，貸出しの窓口は当センター研究普及室指導相談部門が行った。

**研究結果：**対象とした75例は気道内分泌過多のため頻回の吸引を要する例で，脳障害によるもの50例，呼吸器障害によるもの25例であった。疾患は神経系疾患23例，循環器系疾患15例，先天奇形症

1) 神奈川県立こども医療センター小児科(Kanagawa Children's Medical Center)

2) 同上 研究普及室(do)

候群10例，呼吸器系疾患8例，先天性代謝異常5例，染色体異常4例，新生物6例，周産期脳障害4例であった。

年齢別にみると，脳障害のため吸引器を必要とした50例中23例（46％）は2歳未満，呼吸器系障害によるもの25例中2歳未満は21例（84％）であった。

吸引器貸出し回数は，75例で123回の貸出し（家庭使用）があり，1回だけの貸出しは53例であった。

123回の吸引器貸出しの理由をみると，訓練のため（一定期間の家庭使用の訓練の後，自己購入するか否かの判断資料とする）34回，外泊期間のみ貸出し58回，自己の吸引器を有しているが修理期間中の貸出し17回，その他一定期間貸出し14回となっていた。そして，貸出しを受けた75例中自己購入したものは29例であった。

吸引器の必要性が，当初の貸出し時と現在でどのように変わったかをしらべた結果は表1の通りとなった。すなわち，初回貸出し時は入院中のものが51例あったが，吸引器使用で退院可能になった例もかなりあり，現在もまだ入院しているものは13例に減少していた。

表1 入院・在宅別の貸出し状況

	入院中	在宅	死亡	不明
初回貸出し時	51	24	—	—
現在 (62年11月)	13	44	14	4

昭和61年11月から62年10月までの1年間について8台の吸引器の利用状況を見ると，実人数27名

に延37回貸出しており，延貸出し日数は1,008日となり，1台についてみると平均4.6回貸出し，延126日間となり，1回につき28日間の貸出し期間となった。保守点検，整備，修理などの期間を考えると，1台が年間126日貸出されているということは，かなり高い利用率であろうと考えられた。

考察：吸引器の在宅使用による利点としては1)それまでくり返し起こしていた肺炎が予防可能になった。2)家庭療育が可能となり，こどもの育児に父母がかかわれるようになった。3)長期入院患児では病状安定時に外泊が可能になった。

4)高額な機器を購入するにあたり，貸出機器を实际使用してみてその有用性を前もって判断することができた。5)短期使用者（外泊など）では家族の経済的負担が軽減された。

しかし，家族にはチューブ挿入がこわいなど使用上の不安もみられ，また，機器の破損・故障時の修理費，貸出し・返却時の点検，誤操作防止をどうするか，貸出し期間と返却の督促，自己購入など検討すべき課題も残されていた。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:脳障害,呼吸器障害による気道内分泌物過剰のため吸引器を必要とする 75 例の難治性慢性疾患(先天性代謝異常など)について,トータルケアの一環としての在宅吸引器使用状況を分析した。8 台の吸引器は平均年間 126 日貸出されており,1 台平均 4.6 回,1 回貸出し 28 日間であった。くり返す肺炎の予防,外泊可能児の増加,退院し在宅療育に移れたものの増加,機器の自己購入前に試用・訓練ができるなどの利点があった。しかし管理,修理,貸出し期間など今後検討すべき点もあげられた。